トップに聞く【3】

「墓じまい」をトータルでサポート

解体・撤去や許可申請

遺骨や棹石の永代供養

美匠（橿原市）
中西　あざみ社長（45）

「墓じまいは新しい供養の形」と語る中西社長＝橿原市小房町の美匠お客様サポートセンター

故人や先祖をしのぶよりどころとなるお墓。ただ近年では、少子高齢化や核家族化を背景に、墓の維持に悩む人も多い。そこで増えているのが、今ある墓を整理する「墓じまい」。橿原市川西町に本社を置く「美匠」は、墓の解体・撤去から各種手続き、墓じまい後の供養まで、トータルでサポートする。中西あざみ社長（45）は「墓じまいは新しい供養の形。お墓の形はなくなっても、お客さまの心に残る仕事をさせていただく」と話す。

墓じまいは、今ある墓を解体・撤去して更地に戻し、寺や墓地の管理者に使用権を返還する。解体前に取り出した遺骨は永代供養（納骨堂など）や散骨、手元供養などの方法で供養することになる。

中西社長によると、遺族の高齢化や居住地が遠方、承継者がいないなどの理由から、墓じまいする人が増加。墓に対する価値観の変化や寺との関係の希薄化、納骨先の多様化なども背景にあるという。

同社は橿原市出身の中西社長が2003年に創業。それまでダンプの運転手をしていたが、知人の石材店社長から「撤去した墓石の処分に困っている」と相談を受けたのをきっかけに、転業を決意した。

関西のほか、東海、中国・四国、北陸、関東などが対応エリアで、実績を重ねてきた。

「〇〇家」などの彫刻が施された棹石（さおいし）の「無料永代供養サービス」で他社との差別化を図る。墓じまい後の棹石は、三重県熊野市の経王寺安置所で永代供養、棹石以外の台石や卷石は、砂利として再利用するためにリサイクル処理を施す。

墓じまいに必要な改葬許可申請などの各種手続きもサポート。取り出した遺骨の供養方法も相談を受け付けている。

中西社長は「現在のお墓の扱いに困っている人にとって、墓じまいはご先祖さまを末永く供養していくはじめの一歩。どんな相談でも心を込めて対応させていただく」と語る。

中西社長が会社経営で大切にしているのが「人は宝」という考え。従業員の能力向上に力を入れ、福利厚生も充実させてきた。人材確保や業界イメージ向上のため、SNSを活用した情報発信も行っている。業績拡大に向け、関東に支店、各エリアに協力店を増やしていく方針。

「安心価格で後悔しない墓じまいを全力でサポートしていく」と力を込める。

（加藤浩司）

＝次回は9月26日掲載＝

MEMO

美匠
橿原市川西町928―15
電話0744（27）0014
お客様サポートセンター
フリーダイヤル（0120）145139